

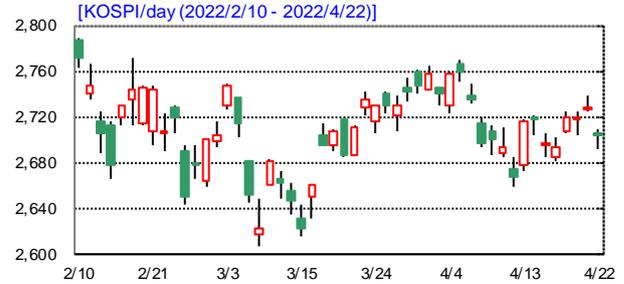


【韓国】 総合指数は週間で0.3%高と3週ぶり反発、今週は底堅く推移か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.3%高と小幅ながら3週ぶりに反発。週明け18日に続落した後に反発と反落を繰り返す展開で、全体の方向性を欠いた。米FRBの利上げに積極的な姿勢やロシアのウクライナ侵攻に伴う世界景気の不透明感が重荷となる一方で、週半ばまでの米株高を受けた買いが支え。19日は米半導体指数の上昇を受けて1.0%高と反発し、終値ベースで3営業日ぶりに心理的節目の2700ポイントを回復。21日終値は6日以来ほぼ2週ぶりの高値だった。決算シーズンの開始に向けて機関投資家の買い意欲が旺盛だった。22日は反落したものの、かろうじて2700ポイントを守って終えた。今週は2700ポイントを下値支持線として底堅く推移か。26日に韓国の1-3月期のGDP、29日に3月の鉱工業生産が発表される予定。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は週間で2.8%安と続落、今週は引き続き経済制裁が重しか

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で2.8%安と続落。ウクライナ侵攻の長期化を受け、不安定な値動きが続いた。週明け18日は前週末比3.1%安と大幅に反落。欧米による経済制裁が嫌気され、金融やエネルギー関連などが売られた。20日は空運株や資源株の上昇に加え、ルーブルが対ドルで大きく上昇したことで3.1%高と反発したものの、22日は経済制裁による景気悪化懸念で3.4%安と大幅に4日ぶりに反落し、終値で930ドルを割り込んだ。ルーブルは対米ドルで4.3%高。ルーブル建てのMOEX 指数は7.9%下落し、2月24日以来の安値となった。個別銘柄では、鉄鋼のセヴェルスターリが9.4%上昇した一方、金融のTCSグループ、ズベルバンク・オブ・ロシア、エネルギーのルクオイルが2桁安と急落した。今週も経済制裁が重しか。

▼指数チャート



【ベトナム】 ベトナム指数は5.4%安と大幅に3週続落、今週は上値の重い展開か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で5.4%安と大幅に3週続落。先安観が一段と強まり、指数は6カ月ぶりの安値を付けた。指数は週明け18日に金融株や不動産銘柄が大きく下落したことで前週末比1.8%安。19日も上昇してスタートしたものの、終盤に売りが強まり、1.8%安と続落した。先安観を背景に指数は21日まで6営業日続落。終値で1370.21ポイントと昨年10月7日以来、約6カ月ぶりの安値を付けた。22日は0.7%高と7日ぶりに反発し、週間の下げ幅を縮めている。個別銘柄ではベトナム銀行が2.5%高、サイゴンビール・アルコール飲料が1.0%高と上昇した一方、ゴム製品のベトナム・ラバーが18.1%安、SSI証券が9.9%安、不動産のピンホームズが9.0%安、ベトナム石油総公社が8.4%安となった。今週は上値の重い展開か。

▼指数チャート





【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.1%安、銀行預金準備率の引き上げを警戒

ジャカルタ総合指数は週間で0.1%安と6週ぶりに小幅反落。週末の下落が響いた。連休明けの18日は、3月の貿易収支が市場予想から大幅に上振れして反発。19日は中央銀行が今年の経済成長率見通しを下方修正したことで売られ、指数は終値で7営業日ぶりに7200ポイントを割り込んだ。ただ、20日にこの水準を回復すると、21日は前日に長期の米国債利回りが低下した効果で買われ、終値で3日ぶりに過去最高値を更新。21日は中央銀行の上級副総裁が、インフレが加速した場合に銀行の預金準備率を引き上げる可能性を示唆した影響で反落している。今週は米国の1-3月期のGDP速報値などの外部要因が焦点。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.8%高、今週は3月のCPIと鉱工業生産発表

ストレーツタイムズ指数は週間で0.8%高と3週ぶりに反発。週初に下落したが、その後は堅調な値動きが続いた。連休明けの18日は、3月の非石油地場輸出が前年同月比7.7%増と市場予想から上振れたものの、中国の景気減速懸念などが重しとなり、指数は前営業日比1.0%安と続落。ただ、19日に小幅に反発すると、20日は前日のNYダウが上昇した流れを引き継ぎ続伸した。好地合いの中、週後半もじりじりと上値を広げ、22日まで4日続伸して取引を終えている。今週は25日の3月のCPIに続き、26日には鉱工業生産が発表される予定。外部要因では米国の金融引き締めに対する動向が焦点になりそうだ。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.0%高、1-3 月期の銀行決算が好調

SET 指数は週間で1.0%高と3週ぶりに反発。おおむね堅調な値動きだった。連休明けの18日は、エネルギー株が買われたものの補えず、指数は3営業日続落。個別の銘柄では、持ち株会社化への一環で今月中に上場廃止が予定されているサイアム商業銀行株が売られた。指数は19日に反発すると、20日は同日に発表が集中した1-3月期の銀行決算が好調だった効果で続伸。21日は外国人旅行者に対する入国規制が5月1日から緩和されるとの観測から買われると、21日は前日からほぼ横ばいで引けている。今週は28日に3月の鉱工業生産が発表される予定。好地合いが続けば1700ポイントを試す展開か。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.8%高、週末に終値で 1600 ポイント台を回復

クアラルンプール総合指数は4日間の取引で0.8%高と反発。週末に終値で約2週間ぶりに1600ポイント台を回復した。週初に18日は、3月の輸出入額がともに前年同月比で20%台の高い伸びを示したものの効果は薄く、指数は引け際に売られた影響で3営業日続落。一方、祝日を挟んだ20日はプランテーション株や建設株を中心に安値拾いの買いが入り反発すると、21日は銀行株を含む幅広い銘柄が買われて続伸した。22日は3月の前年同月比のCPI上昇率が2.2%と市場予想を下回り、インフレ懸念が和らいだ効果で3日続伸して引けている。今週は国内の重要イベントが少なく、外部要因に左右されそうだ。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。